

五所川原

ノハナショウブ 再生願い手入れ

津軽飯詰駅周辺

五所川原市飯詰地区の住民たちでつくる「飯詰を元気にする会」（岡田千秋会長）と東北職業能力開発大学校青森校の学生、教職員が1日、津軽鉄道・津軽飯詰駅周辺でノハナショウブの手入れを行った。

同駅周辺は、1985年の津鉄開業55周年を記念してノハナショウブが植えられ、乗降客らを楽しませて



雑草を刈るなどノハナショウブの手入れをする参加者

同校電気工
ネルギー制御
科1年の伊藤
基希さん(18)

この日の作業には16人が参加、雑草を刈った後にビニールシートを張ってノハナショウブを植栽する地域を広げた。

再生を目指している。

「腰が痛くなりそうですが、訪れた人にきれいな景色を楽しんでもらいたい」と一生涯懸命草刈りをしてきた。
(三浦博史)

いたという。その後、同駅が無人駅となり、雑草に覆われるようになったことから、同会が中心になりノハ

※この画像は、当該ホームページに限って東奥日報社が利用を許可したものです。